

避難所関連について

今回の新潟県中越地震における、避難所生活については、まちの公共の指定避難所以外に、温泉旅館の借り上げ利用、自衛隊のテントなどの活用がはかられた一方で、車内での避難により、健康を害す人が出るという問題も起きている。各避難先を選んだ住民の意向を調査し、避難先の選択理由を解明することにより、今後の避難システムについての提言を行うという目的で、各避難所の調査を行った。

今回、避難所の種類を、避難所(主に公共の)、借り上げ旅館・ホテル、屋外避難(テント、車内)、分散型避難所(ユニットハウス)に分け、それぞれ実際に現地におもむき、避難所の様子を把握することにした。以下に避難所の種類ごとにそれぞれの状況について記す。

避難所について

避難所に避難している人は、被災地全域で最大 103,178 人(10月26日)であったが、11月13日には1万人を割り、今回の調査時には6,046人となっている。避難所の数も603ヶ所(10月28日)で利用されていたが、調査時には104ヶ所にまで減少している。11月21日現在の避難状況については次の通りである。

表 1 避難状況について(11月21日 9:00 現在)

市町村	避難状況		その他避難(屋外)	
	避難所数	避難者数(人)	テント	屋外
長岡市	18	986	210	
山古志村	6	1,441	0	0
小千谷市	18	1,530	782	
川口町	28	1,364	不明	不明
新潟県全域	104	6,046	1,054	

(新潟県ホームページより)

<川口町・川口中学校>

19日現在で避難者数90人。学校に隣接したところに仮設住宅が建設中。また、屋外に仮設トイレが設置されていた。避難者の様子は観察できず。ちょうど神戸市長田区真陽地区の人がボランティアとして、あたたかいうどんの配給を行っている途中であった。兵庫県警の人たちも巡回中であった。



左：仮設トイレ
右：真陽地区の人たち

<川口町・田麦山小学校>

19日現在で避難者数 203 人。校舎の 2 階部分と、体育館を避難所として活用していた。2 階部分は、廊下に生活必需品や救援物資などが積まれていた。避難者は教室内で床にウレタンマットのようなものを敷いて生活をしており、小学生から高齢者の人まで様々であった。調査時にはそれほど多くの方は 2 階部分にはおらず、おそらく体育館のほうに多くの人が避難していたと見られるが、体育館の入り口の扉にはガムテープで固定されており、入ることはできなかった。学校のグラウンドには、配給場所が設置されており、その外に仮設住宅の建設が進んでいる段階であった。



左：田麦山町学校前
右：テントの下で炊き出し

<小千谷市・総合体育館メインアリーナ>

19日現在で避難者数 470 人。屋外(テント、車)に避難されている人も 30 名ほどいるとのことであったが、若干の避難用テントのみしか確認できなかった。テントを畳んでいる所の光景に遭遇しており、屋外への避難者は、かなり少なくなっていたものと思われる。

屋外の広場では、自衛隊による風呂の提供が行われており、また体育館の入り口には、入居者名簿、避難関係、福祉関係、衛生関係、住宅再建関係の紙が数多く掲載されていた。

体育館の中は、避難所とともに生活再建の相談窓口が併設されており、多くの方が訪れていた。避難所については、体育館に数十名と、別の個別の部屋が利用されていた。調査に訪れたのが昼過ぎであったが、被災直後に比べて、かなり落ち着いた印象であった。



左上：テントの片付け
左下：体育館内
上中央：自衛隊設置の温泉
下中央：屋外でテント
右上：入り口に掲示された紙

<総合福祉センター・サンラックおぢや>

19日現在で避難者数が214人。1階はボランティアの人がつめていて、2階大広間が避難所になっていたようだった。避難されている人以外は立ち入り禁止となっており、一般の人は階段を利用できないようになっていた。山間部の被害が大きかった地域の人々が避難しているとのことであった。

<小千谷市・小千谷小学校>

19日現在で避難者数64人。隣接するグラウンドに避難者用のテントがあり、同敷地内に仮設住宅が建設中であった。避難者の様子は観察できず。屋外にはボランティア関係のテントをいくつか確認した。



左：体育館正面
右：体育館側面

借り上げ旅館・ホテル

災害要援護者に対する支援事業で、新潟県は災害救助法に基づき、旅館やホテルを借り上げて被災者に無料で提供しており、10月29日から利用開始している。

今回、長岡市内の施設に避難者へのヒアリングをお願いしたが、避難者のプライバシーの配慮から調査できず。

屋外避難(テント、車内)

それぞれ何らかの理由により、公共の避難施設に入居しなかった(あるいはできなかった)人が、数多く屋外に避難しているのが、今回の震災の大きな特徴の1つと考えられる。特に車内での避難により、健康を害することが大きな問題となった。テントに関しては、自衛隊が提供しており、その中でも公共の避難所に隣接する敷地に固まって設営しているものもあれば、自宅の敷地に個人のテントを建てて、生活しているものもある。

<川口町・東川口保育園>

東川口保育園に隣接する敷地に20~30ほどが設営。川口町の中心地にあり、自衛隊も近くに駐屯していた。仮設トイレ、炊き出し用のテント、近くには自衛隊の駐屯地があった。調査中に婦人警官が高齢の避難者へ話しかけを行っているのを見かけることができた。



左、中央、右：避難者用テント

<小千谷市・小千谷中学校グラウンド>

11月19日現在で避難者は73人。20～30ほどのテントが設営。建物内への避難者はなく、全員が屋外での避難となっている。グラウンド内に車が何台かあったが、避難者はおそらくテントの方に避難していたと思われる。



左、中央、右：避難者用テント

分散型避難所

ユニットハウス

被災者が損壊した自宅を修復する間、自宅敷地内などに設置し寝起きができる建物。従来の仮設住宅と違い、自宅間近で暮らせるメリットがある。建物はベニヤ板製の簡易型の建物で建設現場の事務所などに利用されているもの。約6.5、10、12㎡の3種類。

<長岡市・滝谷町の事例>

毎日新聞の記事の中で、長岡市・滝谷町にユニットハウスが設置されたという情報により、現地へおもむいた。周辺は市街地郊外に位置しており、全壊クラスの被害を受けた住宅はないようであったが、今回ユニットハウスが設置された家は自宅2階の損傷が激しく、修復する間に利用するとのことであった。



上：ユニットハウス